

フォトコンテスト審査会

と き 令和3年10月7日(木)

ところ 山口県医師会6階会議室

[報告:理事 藤原 崇]

対外広報事業として、「いのち きずな やさしさ」をテーマにしたフォトコンテストを今年度も開催した。前回から応募者を「山口県内在住の方のみ」に限定させていただいているが、46名の方から、計109作品のご応募をいただいた。

今回も審査委員長として、写真集『結界』で第34回^{どもんけん}土門拳賞を受賞されている萩市在住の写真家下瀬信雄氏を迎え、審査員には河村康明会長、今村孝子・加藤智栄 両副会長、そして広報委員の川野豊一先生、渡邊恵幸先生、岸本千種先生、石田 健先生、吉川功一先生、岡山智亮先生、藤村智之先生をお願いした。

審査会当日、会議室に並べられたすべての作品を見てみると、愛情の込められた、心を癒してくれる写真ばかりであった。この中から、最優秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞、こども賞、新人賞各1点及び佳作4点の計9点の選考を開始した。

審査方法は例年同様、まず、各審査員に付箋9枚を配付し、自分が気に入った作品に貼るというものである。各審査員はそれぞれの感性を活かして、真剣な面持ちで次々に付箋を貼り付けていった。年々、力作揃いで選ぶのが困難になって

きており、皆さん、悩みに悩んで選ばれている姿が印象的だった。付箋が貼られた作品を集め、下瀬審査員長の進行のもと、審査が進められた。被写体の表情、構図、光の使い方だけでなく、それらを通して伝わる撮影者の「伝えたいメッセージ」がわかる、あるいは「発見」や「感動」がはっきり出ている作品が審査員の心を捉えたようである。審査開始から約40分後、最優秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞、こども賞、新人賞の各1点及び佳作4点の各受賞作品が決定した。

なお、受賞作品については、例年であれば11月に開催している県民公開講座にて表彰式を行うとともに、下瀬審査委員長に講評を行っていただき、全応募作品を展示していたが、今回も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から県民公開講座の開催が中止となったため、これに伴い表彰式並びに作品の展示も中止とさせていただいた。

その代わりとして、次頁から下瀬先生の講評並びに受賞作品を掲載させていただくこととする。

ご応募いただいた皆さま、審査員の皆さまに深く感謝いたします。



講 評

当コンテスト審査委員長／写真家 下瀬 信雄

<総評>

今年も多彩な力作が集まりました。「いのち、きずな、やさしさ」をテーマとしたこのコンテストは、他の写真コンテストとは趣が少し違い、技術の優劣を超えて「写す人と写される被写体」との関係が感じられるかどうか重要なポイントになってきます。それだけに評価に差が出る結果になった部分もあります。みなさんそれぞれ自分の宝物の写真を応募していただきましたので、全員に賞を差し上げたい気持ちです。

今回も応募いただいた全作品を展示する機会がありませんでしたので、他の力作をお見せできないのが残念です。ベテランの方々からも素晴らしい作品が寄せられています。来年は皆さんで集い合える機会が来ることを祈っています。

最 優 秀 賞



「シャボン玉に囲まれて」

谷野 隆 様 (山陽小野田市)

たくさんのシャボン玉の舞う中、スマホに赤ちゃんを収めようとしている家族を写した美しい一枚。淡い色のシャボン玉を濃いバックに配することで虹色に際立たせ、光の扱いが上手く被写体を浮かび上がらせている。

優 秀 賞



「93歳ちがいのお友達」

中野 理恵様

この子の歳からいくと「ひいおじいちゃん」というところだろう。後ろに持っているのは今からサプライズで渡そうとしているお祝いのプレゼントなのだろうか、写したのはお名前からするとお母さん、それとも？などいろいろなことを想像させる一枚になっている。

下瀬信雄 賞



「七五三 ママ助けて！もうわたし疲れて歩けません!!」

T・O様

晴れ着を着ているのにバタンと倒れて、「もうだめ」って言っているのだろうか、駄々をこねているのだろうか、「あるある、こんなこと。」と思ってしまった。

表情が写っていないのに妙なリアリティがある。きっとアルバムのこの一枚を見るたびに、「あの時の七五三はね」と家族の話題に上るのが目に見えるような気がする。

佳 作



「子育て奮闘中！」
石生 義晴 様 (岩国市)

ヤマセミの子育てを撮った一枚。なかなか出会わない美しい鳥で、子育てに遭遇するのも珍しい。警戒心の強いヤマセミを見事にとらえている。



「合掌」
末松 聡 様 (下関市)

合掌している石仏の後ろから太陽の光が降り注ぎ、境内の清々しさや静けさが伝わってくる一枚。光の見極めが上手い。



「新しい家族にワクワク！！」
村田 利子 様 (宇部市)

何とも楽しそうな二組の母と子、写っているのが全員女性。さあ生まれてくる子は？いろんな物語が描けそうな気がする。ストレートな演出がインパクトのある映像となった。



「息災を願って」
金子 幸子 様 (宇部市)

火渡りの神事、必死の表情のおばあちゃん、介添え役の山伏。半逆光の光の中に浮かび上がる三人を絶妙なシャッターチャンスでとらえている。

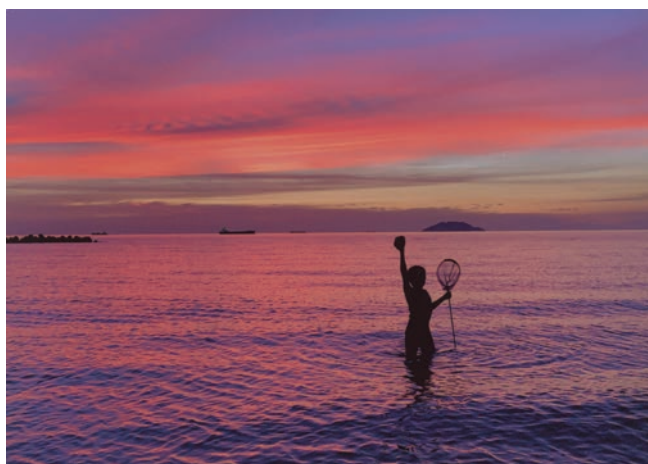
こども賞



「よしっ、いくぞ！」
長谷川 和奏 様 (山口市)

今まさに滑り台のてっぺんから滑り降りようとしている兄弟の下の子をお兄ちゃんが撮ったのだらう。下でカメラを構えているのはお姉ちゃんだらうか。兄弟の成長の記録がこの一枚によく表れている。

新人賞



「茜色の海から湧き出るパワー！」
中野 涼子 様 (下関市)

見事な夕焼けの波打ち際、網を持った人物のシルエットが美しい。右手で高々と掲げている獲物は何なのだらうか。